

② 入試区分

人間生活学研究科博士前期課程（Ⅰ期）

③ 出題科目

専門科目

④ 出題の意図

増加し続ける児童虐待は、今や重大な社会問題となっており、専門的な知見を集約し、有効な対策を講じる必要が大きい。また、臨床場面で見られる様々な症状の背景に児童虐待があることも多く、その場合、虐待についての理解が治療上重要となる。このような見地から、児童虐待についての理解度を問うことを意図して出題した。

受験番号	氏 名

2026 年度 I 期 人間生活学研究科心理学専攻（臨床心理学コース）博士前期課程
入 学 試 験 問 題 （ 専 門 科 目 ）

（ 4 枚中 1 枚目）

※問題は 2 問あります。2 問とも解答して下さい。（解答用紙を含め、全部で 4 枚あります。）

問題 1. 次の文章の①～⑮の空欄に適切な語句または人名を、2 枚目の語句選択用リストから選んで解答してください。ただし、一度選択した語句は他の空欄には使えません。

- （ 1 ） ジェンセンは、人間の発達は遺伝と環境の相互作用で規定され、特定の特性が発現するためには、一定の環境条件が必要であるという（①）を唱えた。
- （ 2 ） 精神分析という防衛機制のうち、社会的に受け入れがたい欲求や苦痛な体験などを意識から締め出し、無意識に追いやることを（②）という。
- （ 3 ） 家族の一生の過程。結婚して夫婦となり、子どもが生まれ、成長し、子どもが巣立ち、老い、死ぬという、家族の一生の過程のことを（③）という。
- （ 4 ） 認知心理学とは、感覚器官や神経や脳が環境からの情報をどのように処理して反応しているのかを研究する学問であり、環境からの情報は（④）となって脳に伝えられる。
- （ 5 ） 加齢により心身が老い衰えた状態で、早期に介入すれば元の健康な状態に戻る可能性があるが、適切な対応がなされないと要介護状態に進行してしまうおそれがある状態を（⑤）という。
- （ 6 ） 緩和ケアにおいては、身体的苦痛だけでなく、心理的苦痛や社会的苦痛、さらには（⑥）な苦痛も含む全人的なケアを行う必要がある。
- （ 7 ） 心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った人が社会に戻ることを促進するため、生活環境の調査、生活環境の調整、精神保健観察等の業務を主に行うのは、（⑦）である。
- （ 8 ） 2 つの変数間の因果関係を解明しようとする研究において、原因と考えている変数以外の変数で結果に影響を及ぼす変数を（⑧）と呼ぶ。
- （ 9 ） 心身症との関連が指摘されている性格傾向であるタイプ A 型行動パターンの研究では、心筋梗塞発症の最も強いリスク要因は、（⑨）である。
- （ 10 ）（⑩）は、認知者の中で 2 つの認知要素間に矛盾が生じているために引き起こされる心理的な不快感を認知的不協和と呼び、認知者はそれを解消しようとする、という理論を提唱した。

受験番号	氏 名

(4 枚中 2 枚目)

- (11) ワーキングメモリにおける情報処理の際に、下位システムの制御や情報処理に使用する資源の適切な配分などを行う箇所を (⑪) と呼ぶ。
- (12) 生涯発達理論において、人の発達を生涯にわたる獲得と喪失の過程としてとらえ、エイジングに伴う制約に対しては、補償的・代替的なメカニズムが発達するとしたのは、(⑫) である。
- (13) 統計的仮説検定の結果、1 % 水準で有意となった場合、(⑬) が正しいとき、手元のデータで得られた大きさよりも極端に (⑭) 統計量が得られる確率は 1 % 以下である。
- (14) MMPI-3 は、ジェンダーや宗教に関する質問項目が削除され、質問項目数が MMPI の 550 から (⑮) に減った。

【語句選択用リスト】

バルテス	保護司	レヴィン	ハヴィガースト	ハイダー	視空間スケッチパッド	フレイル	光信号
保護観察官	輻輳説	フェスティンガー	中央実行系	独立変数	電気信号	ロコモティブシンドローム	
スピリチュアル	剰余変数	対立仮説	335	昇華	小さい	社会復帰調査官	時間的切迫感 315
サルコペニア	最近接領域説	355	合理化	帰無仮説	音韻ループ	感情抑制	環境閾値説 音波
家族ライフサイクル	大きい	家族的	エリクソン	抑圧	従属変数	怒り・敵意	説明変数 経済的

受験番号	氏 名

2026 年度 I 期 人間生活学研究科心理学専攻（臨床心理学コース）博士前期課程
入 学 試 験 問 題 （ 専 門 科 目 ）

（4 枚中 1 枚目）

※問題は 2 問あります。2 問とも解答して下さい。（解答用紙を含め、全部で 4 枚あります。）

問題 1. 次の文章の①～⑮の空欄に適切な語句または人名を、2 枚目の語句選択用リストから選んで解答してください。ただし、一度選択した語句は他の空欄には使えません。

- （1）ジェンセンは、人間の発達は遺伝と環境の相互作用で規定され、特定の特性が発現するためには、一定の環境条件が必要であるという（① 環境閾値説）を唱えた。
- （2）精神分析という防衛機制のうち、社会的に受け入れがたい欲求や苦痛な体験などを意識から締め出し、無意識に追いやることを（② 抑圧）という。
- （3）家族の一生の過程。結婚して夫婦となり、子どもが生まれ、成長し、子どもが巣立ち、老い、死ぬという、家族の一生の過程のことを（③ 家族ライフサイクル）という。
- （4）認知心理学とは、感覚器官や神経や脳が環境からの情報をどのように処理して反応しているのかを研究する学問であり、環境からの情報は（④ 電気信号）となって脳に伝えられる。
- （5）加齢により心身が老い衰えた状態で、早期に介入すれば元の健康な状態に戻る可能性があるが、適切な対応がなされないと要介護状態に進行してしまうおそれがある状態を（⑤ フレイル）という。
- （6）緩和ケアにおいては、身体的苦痛だけでなく、心理的苦痛や社会的苦痛、さらには（⑥ スピリチュアル）な苦痛も含む全人的なケアを行う必要がある。
- （7）心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った人が社会に戻ることを促進するため、生活環境の調査、生活環境の調整、精神保健観察等の業務を主に行うのは、（⑦ 社会復帰調整官）である。
- （8）2 つの変数間の因果関係を解明しようとする研究において、原因と考えている変数以外の変数で結果に影響を及ぼす変数を（⑧ 剰余変数）と呼ぶ。
- （9）心身症との関連が指摘されている性格傾向であるタイプ A 型行動パターンの研究では、心筋梗塞発症の最も強いリスク要因は、（⑨ 怒り・敵意）である。
- （10）（⑩ フェスティンガー）は、認知者の中で 2 つの認知要素間に矛盾が生じているために引き起こされる心理的な不快感を認知的不協和と呼び、認知者はそれを解消しようとする、という理論を提唱した。

受験番号	氏 名

(4 枚中 2 枚目)

- (11) ワーキングメモリにおける情報処理の際に、下位システムの制御や情報処理に使用する資源の適切な配分などを行う箇所を(⑪ 中央実行系)と呼ぶ。
- (12) 生涯発達理論において、人の発達を生涯にわたる獲得と喪失の過程としてとらえ、エイジングに伴う制約に対しては、補償的・代替的なメカニズムが発達するとしたのは、(⑫ バルテス)である。
- (13) 統計的仮説検定の結果、1%水準で有意となった場合、(⑬ 帰無仮説)が正しいとき、手元のデータで得られた大きさよりも極端に(⑭ 大きい)統計量が得られる確率は1%以下である。
- (14) MMPI-3 は、ジェンダーや宗教に関する質問項目が削除され、質問項目数が MMPI の 550 から(⑮ 335)に減った。

【語句選択用リスト】

バルテス	保護司	レヴィン	ハヴィガースト	ハイダー	視空間スケッチパッド	フレイル	光信号
保護観察官	輻輳説	フェスティンガー	中央実行系	独立変数	電気信号	ロコモティブシンドローム	
スピリチュアル	剰余変数	対立仮説	335	昇華	小さい	社会復帰調査官	時間的切迫感 315
サルコペニア	最近接領域説	355	合理化	帰無仮説	音韻ループ	感情抑制	環境閾値説 音波
家族ライフサイクル	大きい	家族的	エリクソン	抑圧	従属変数	怒り・敵意	説明変数 経済的

2026_院試 I 期

記述問題

児童虐待の被害者が、親になってから児童虐待の加害者になる場合があるが、その原因について考察しなさい。

解答のポイント

虐待の連鎖については、多数の原因が関与していると考えられ、様々な仮説が提示されている。以下に、その主要なものを列挙する。

- ・虐待のある家庭では、暴力が最も手近な問題解決手段となっており、それを学習した子どもは、自分が作った家庭においても、暴力を行使しがちとなる。
- ・虐待による慢性的な不安や葛藤は、子どもの衝動性や情緒不安定性を高めやすく、それがささいな刺激への過剰な反応につながる。
- ・虐待による屈辱感、卑小感を、自分より弱い子どもを攻撃することによって補償しようとする。
- ・虐待を受けて怯えたり、泣いたりする子どもを見ると、自分が虐待を受けていた時の惨めさを想起し、ますます怒りやいら立ちが高まる。
- ・貧困、周囲からの孤立などの虐待につながる外的要因が、親から子に引き継がれやすい。

解答に当たっては、これらについて、網羅的・論理的に考察・記述されていることが求められる。